

白山ふるさと文学賞

第四回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

中高校生作文の部 優秀賞

大人になつていくには

松任中学校二年

北村 きたむら

香乃 かの

私は、あまり深く考えずに「頑張る」という言葉を使ってきた。目標を立てる時などは、とりあえず「頑張る」と書いておけば、目標らしくて先生も認めてくださるだろうと思っていたからだ。小学校の頃はいつもそんな感じだった。

中学一年生になった初めのころ、今年目標を書かなければならなかった。私はその時も「何事も頑張る。」とだけ書いて、先生に見せに行つた。そうすると先生に、

「何をどう頑張るの？」

と聞かれた。私はそこまで考えていなかった。何をどう頑張るのか、何のために頑張るのかをはつきりさせないとだめなのだ気づいた。頑張るといふ気持ちは、人それぞれ違うと思う。だからこそ、目標を決めるときは自分自身が何をどのくらいまで頑張るかを考えなければならぬ。これから生きていくにつれて、何度も何度も目標を持って物事に取り組んでいかなければならない時があるだろう。そのたびに「何をどう頑張るのか」ということをよく思い出していきたい。これが大人になつていくための一歩だと思う。

まだ私は、大人になつていくために考えなければならぬことがあると思う。それは、「自分の意見と他のみんなの意見が違ったとき」のことだ。実際に今、私が所属する女子バレーボール部では、よく意見がくい違っている。それを解決するために、最近よくミーティングをしているが、なかなか意見がまとまらず悩んでいるところだ。親や先生から、

「自分の意見をしっかりとって、みんなに伝えたほうがいい。」

といわれることがある。確かに、自分の意志を表に出さないと、その人がどうしたくて最終的にどうなりたいかが分からない。しかし意見を表に出し過ぎて、他の意見を受け入れることがなくなってしまうのは違うと思う。自分の思いが正しいと信じて行動していると、他の人の思いは正しくない、間違っているのではないかと思ってしまうがちになる。でも他の人も自分と同じように、自分の考えが正しいと信じて行動してい

る。だから、自分と違うからといってその意見を否定し、自分の意見をむりやり押しつけるのはいけないのではないかと思う。意見が違つたとしても、まず「受け入れる姿勢」で相手の思いをきくべきだ。そして少しでも自分と相手の思いが近づけられるように、みんなと話し合いをすればいいと思う。

また、「受け入れる姿勢」は友達付き合いの中でも大事になってくると思う。ミーティングをした時に、意見が分かれた人同士で言い争いのケンカになるときがある。こうなってしまうと、せっかくこれから頑張っていく仲間とチーム、友達として仲良くやっつけていけなくなってしまう。または、意見を出すことによって友達関係がくずれてしまうくらいなら、なにもいわないほうがいいと感じる人が出てくる。そうになると、話し合いをしても何も解決しなくなるし、成長することもできない。だから話し合いをする時は、この「受け入れる姿勢」を忘れないようにしていきたい。

自分が大人になつていくには、今から身につけておかなければならぬことがたくさんある。「物事に取り組むときは、ちゃんと詳しい目標を立てること」と「相手の意見を受け入れる姿勢」は、その中でも特に大切なことだ。自分の意見をもつことはとても大切なことだけれど、決して「自分一人」のことだけを考えるのではなく、「他の人」のことを考えていかなければならないと思う。自分が生きていくには、「友達」をはじめとする自分以外の人の力を借りていかなければいけない。そうすると、「友達」とはとても大切な存在になる。自分は他の人に助けられながら生きていくのだから、自分も、他の人に力を貸してあげなければならぬ。こんな風に助け合っていけたら、自分は成長していけると思った。